

ちゅ
ちむ美らさ

第108号

発行: 北部農林水産振興センター
農業改良普及課

住所: 沖縄県名護市大南1-13-11

電話: 0980-52-2752

FAX: 0980-51-1013



今こそ、生産コスト削減に取り組む！

コロナ禍による和牛肉の消費低迷などの影響で、肉用子牛価格はコロナ前に比べて5~10万円低下しています。

一方で、穀物の国際価格の高騰や原油価格の変動による輸送費の増加、海外の新築住宅増による木材需要の増加といった外的要因によって、畜産物生産にかかるコストが増加しており、畜産経営に影響しています。

目次

- 1P・今こそ生産コスト削減に取り組む(畜産)
- 2P カボチャ栽培、圃場準備・植付について
- 3P マンゴー収穫後の樹形改造について
- 4P 伊江島情報
高単価らっきょう目指そう

値上げ



輸入粗飼料

値上げ



トウモロコシ(配合飼料)

値上げ



敷料(オガ粉)

生産コストを少しでも抑えて、利益を確保しましょう！！

(例) 自給粗飼料の増産

更新前

低収量
低品質

更新後

収量・品質
UP

雑草が繁茂し、生産性の低い草地は除草剤散布と更新をお薦めします。沖縄の土壌は有機物・ミネラルが不足しているため、堆肥や苦土石灰などを補給しましょう。

(例) 細断古紙の敷料活用

敷料費
削減

不要古紙の細断屑を敷料として利用。既存の敷料(オガ粉、ウッドペレットなど)と混合することで、1度で使う敷料を減らす事ができます。50%代替すれば、敷料費も半減！

(担当: 本田)



カボチャ栽培が始まる季節です ～ほ場準備・植付けについて～



これから、カボチャ栽培の季節が始まります。ほ場の準備はできていますか？

- ・完熟カボチャを作るためには最後までしっかりと下葉を残すことが重要です。
- ・ほ場準備からしっかりと対策を行い、高品質のカボチャ生産を目指しましょう。

ほ場準備 (季節風対策)

冬春期の強い季節風は、葉に傷みを与え、葉の枯れ上がりの原因となります。葉枯れは、果実の小玉化や日焼け、完熟しない等の品質低下を起こすため、ソルゴー等による防風垣の設置が必要です。

【ソルゴーによる防風垣】

- ソルゴーの種は、カボチャ植付の **1～2ヶ月前**をめやすに行う
(10月以降の種は、防風垣に十分な高さが確保できないので注意する)
- 防風垣として、**1.5～2mの高さ**が必要です
- は種した後は、覆土・鎮圧を行う
- 土壌pHが低い場合、炭カルなどで矯正し、生育を良くするため肥料を与える
- 倒伏や雑草化を防ぐため、ソルゴーの穂は刈り取る



ソルゴーは、うね毎に植え付ける

植付け (直播き)

種子を直接、畑へ植える「直播き」は、ポットで育苗し植える方法と比べて省力ですが、「発芽が環境条件に左右される」等の欠点があります。

【直播きのポイント】

- 種を落とす前に植え穴にしっかりとかん水する
(かん水で土を落ち着かせておくことで、かん水による種の浮き沈みを防止)
- 植え穴の深さは1～2cmとし、は種後は培養土などで覆土する
深植えしないこと
- は種後のかん水は、土をなじませる程度に軽く行う
(表面の土を固めない工夫)
- アブラムシ対策として、粒剤を施用する
- 発芽後すぐにススキなどで固定する
- は種後、1週間程度は手かん水する

※一斉に発芽すると、栽培管理がそろい、同時期の着果、収穫が可能になります

※直播きと同時に1～2割程度は、補植用の苗を作りましょう



培養土による覆土



ススキによる固定



手かん水

マンゴー収穫後の樹形改造について

8月中(遅くても9月)に剪定作業を終え、誘引作業に入ります。誘引により花穂に光がしっかり当たることで花・果実の色が良くなります。



日当たり

良好!

立ち枝や下垂枝があり、枝も多い

立ち枝の誘引、
利用可能な下垂枝
つり上げを行う



【樹形改造・誘引のポイント】

- ① 主枝、亜主枝の太枝から誘引し、枝の配置を変える。
- ② 枝の配置を変えても、枝が混んでいる場合のみ間引きせん定を行う。
切り返し剪定はせず、せん定量は樹全体の2割程度にする。
- ③ 空いた空間に枝を再配置する。

注意：収穫後の間引きせん定は10月中には終了し、それでも間引き剪定が必要な場合は花芽確認後に2割程度の剪定量で行う。これを数年かけて徐々に行って樹勢安定を維持しながら樹形改造を実施していく。

☆優良事例: 定植時から枝は主幹から外に放射状に配置し、背中側に発生する枝は新梢の状態で切除して育成した樹の樹形

枝は外側に向けて誘引し、逆行枝は作らない。



(8年樹)

定植後しばらく樹冠中央に枝が無いが5~6年後から発生してくる。

- ・残す新梢の数は太い枝2本、細い枝1本、平均1.75本
- ・枝数は200本、・葉数は1枝当たり30枚、・着果枝率は75~80%

※写真の樹形への改造と安定生産と同時並行ですすめるためには
上記【樹形改造・誘引のポイント】に従い、**複数年かけて実施**する必要があります。

(担当:果樹)

キロ
2000円
!

かん水を実施して 高単価島らっきょうを目指そう!

伊江村にて島らっきょう栽培での、かん水の効果を確認するため試験栽培を行いました。その結果をお知らせします。(令和2年度実施)

試験栽培内容

定植日 令和2年9月14日

かん水量
10月12日 60t 10月15日 20t
10月28日 60t 11月12日 20t 11月21日 30t
(すべて500坪あたり) その他の管理は例年と同じ方法で実施

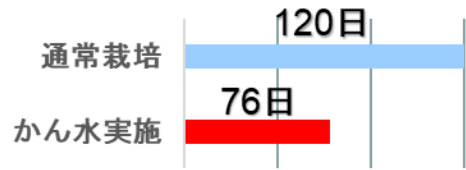


結果 その1

早期収穫が可能

伊江村での島らっきょう栽培は通常9月~10月頃に定植し、収穫が1月~2月頃となる。今回、かん水を実施したことで順調に生育し、収穫が11月から行え、収穫までの日数が早くなった。(収穫: 11月28日開始)

収穫までの日数比較

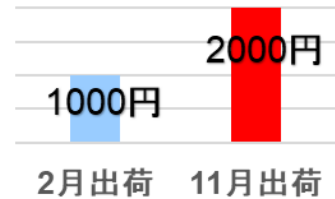


結果 その2

高単価が狙える

例年、2月出荷の市場単価はキロ1000円程度であるが、今回の栽培では早期収穫が可能となり、11月に出荷出来たことから、市場に出荷してキロ2000円となった。

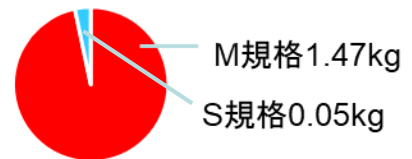
高単価時に出荷が可能



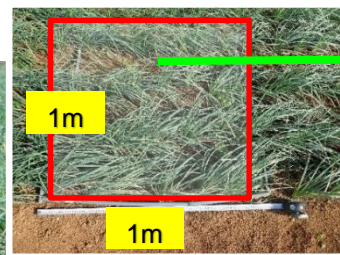
結果 その3

収穫量は1㎡で1.5kg

収穫結果(1㎡あたり)



M規格: 太さ15mm程度 S規格: 太さ7mm程度



収穫時の圃場の状況(12月7日)